

26年産台湾向け青森りんご輸出状況調査

- 1 期 日 平成27年5月25日（月）～28日（木）
- 2 調査者 一般社団法人青森県りんご輸出協会 理事長 太田一民
青森県観光国際戦略局国際経済課 総括主幹 長内昌彦
主 幹 佐藤新吾
- 3 訪問先 璉鑑實業有限公司（卸売業者：新北市）
大洋僑果股份有限公司〔建隆〕（輸入業者：台北市）
台湾瓦克國際股份有限公司（輸入業者：台北市）
台湾新果國際有限公司（輸入業者：台中市）
長龍農産股份有限公司（輸入業者：高雄市）
卸売市場（新北市果菜批發市場、台中市果菜批發市場）
花果山水果
小売店（ジェイソンス、ウェルカム、太平洋SOGO）

4 概 要

（1）青森県産りんごについて

- ・26年産の青森りんごは、総じて食味・品質がよく、特に円安であったことから、前年を上回る取扱実績となった業者がほとんどであった。ただし、台湾でのりんごの消費も減退傾向にあるとのことで、前年産と同程度の取扱実績となった業者も見られた。
- ・品種では、トキと有袋ふじの評価が高く、アメリカ産との差別化を図るためにも有袋を維持して欲しいとの声が聞かれた。
- ・一方、これまでを通して見た場合、全般に品質低下の傾向にあるという声もあった。
- ・27年産については、輸出はじめのトキの品質が重要なポイントとなり、その後の取扱量に大きな影響を与えることになるので、25年産のような収穫期に達していないものは出さないようにして欲しいとの声がほとんどであった。
- ・今後の販売促進に向けては、台湾の消費者が食の安全・安心への関心が非常に強いこともあり、消費者に青森りんごが安全・安心であるとのイメージを植え付ける（＝それが他国のものより高くても消費者の購買活動に結びつく）ためのCM等に力を入れていくべきとのアドバイスがあった。

（2）他国産りんごについて

- ・アメリカ産りんごの品質はそれほど良くはなかったが、低価格であることから、取扱量はほぼ例年どおり。
- ・チリ産は、そこそこ糖度はあるものの、着色が悪く、特に、果皮表面に黒点が発生しているりんごが多く見られ、歩留まりが悪いとの声が聞かれた。
- ・NZ産は、チリ産よりも糖度が高く、着色もいい。今後関税がなくなることから、取扱量も増えていく見込み。

- ・韓国産は、品質・価格ともにこれといった特徴がなく、中途半端な位置づけとなっており、シェアは減少傾向にある。

(3) 新たな輸入規制の影響について

- ・新たな規制で産地証明書の添付が義務付けられたが、植物検疫証明書が産地証明書の代わりになるということで、各業者いずれも心配はしていない。
- ・小売店調査の際に店舗の棚を見たところ、日本産菓子等は少なく、加工食品では産地証明の義務付けの影響が多少あるように思われた。
- ・交流協会台北事務所によれば、台湾側は商工会議所法で位置づけられた514の商工会議所で発行する証明書は受け付けるということをプレスリリースしており、現在、商工会議所での対応が徐々に増えてきている（大阪商工会議所や神戸商工会議所等）とのこと。

ただし、商工会議所で発行している証明書の様式への産地の記載方法がまだ不確定なようである。

以上、詳細は別添のとおり

1 璉鑑實業有限公司（卸売業者：新北市）

日 時 5月26日（火）9:00～10:00

対応者 林 志信

<林 志信>

- ・平成26年産の青森りんごの取扱量は、前年産より約30%増加した。
多く輸入しすぎて保管が悪い状態が続き、褐変を多く出してしまったこともあり、100万ケース収納できる冷蔵庫を整備した。今後、青森県も台湾に輸出するに当たっては、台湾でしっかり品質を維持できる設備を持った業者に輸出した方が良いのではないかと思う。
- ・輸入量が増加した要因は、品質・食味が良かったこともあるが、円安であったことが最も大きい。
- ・青森りんごの品質レベルは、年々は低下しているように思う。
- ・アメリカ産の取扱量は、青森県産の3倍くらいある。アメリカ産は、品質はそこそこだが、価格が安いので、特段うるさくは言わない。
一方、青森産は価格が高い分、評価も厳しくなるので、品質管理を徹底していただきたい。
- ・韓国産の取扱はない。
- ・NZ産は3月から取扱が始まっているが、来年になれば、関税がゼロになるので、取扱量はもっと増えると思っている。
- ・チリ産は4月末くらいから取扱が始まっており、食感はいい。しかし、りんごの果皮表面に黒点があるものが多いため、歩留まりが悪い。
- ・輸入規制で必要となる産地証明については、これまでの検疫証明書が使えるので特に問題視していない。
- ・今後の青森県産りんごの輸出拡大に当たっては、宣伝にもっと力を行くべきだろう。
また、青森県側、台湾側双方でしっかり品質管理していくことも必要になってきていると思う。

2 大洋僑果股份有限公司〔建隆〕（輸入業者：台北市）

日 時 5月26日（火）10:30～11:30

対応者 董事長 穎川建忠

總經理 陳 清福

董事長秘書 黃 瑋瑋

總經理秘書 黃 蕙晶

<陳總經理>

- ・北半球の26年産りんごは4月でほぼ終了した。アメリカ産は、品質が良くなかったこともあり、販売が進まず、在庫が増えてしまったため、価格を30%減額して販売した。
- ・アメリカの港湾ストライキにより、台湾までの輸送期間が長引き、ビターピットが多く発生したことも影響した。

- ・チリ産も黒点が多く発生している。日本産は船で2日もあれば台湾に到着するが、チリ産は1ヶ月ほどかかり、その輸送期間の長さが黒点の発生につながっているのではないかと思っている。
- ・NZ産については、甘さはチリ産の方が上だが、今後、関税がゼロになるので扱いやすくなると思っている。
- ・韓国産は、品質・価格ともにこれといった特徴がなく、シェアは伸びていない。
- ・平成26年産の青森りんごは、品質が安定しており、食味も良好で、概ね問題はない。円安効果とアメリカ産の品質が悪かったこともあり、旧正月前後で、取扱量の割合がアメリカ産：青森産=60：40から20：80に変わった。また、青森県産の有袋ふじの品質がよく、いつもの年は4月始めで終了だが、26産は5月14日くらいまで持った。
- ・青森りんごは、伝統市場、大手スーパーマーケット向けに販売しているが、円安もあって順調に売れている。ただし、高級店は価格での差別化が難しくなり、販売が厳しいようだ。
- ・「トキ」は台湾の消費者に受け入れられており、食べ時の3週間以内に効果的にPRできればまだまだ売れる。「つがる」はだめ。
- ・27年産の販売では、最初のコンテナがポイントになる。お互い合理的な価格設定ができれば、青森県産の取扱も伸ばしていける。
- ・輸入規制で必要となる産地証明については、これまでの検疫証明書が使えるので特に問題視していない。
- ・1月の選挙期間の販売は落ちるだろうが、そんなに大きな影響にはならないと思っている。むしろ、残留農薬とかの問題が出た場合、今の台湾ではその方が大きく影響を及ぼすので、青森県側でも気を付けてもらいたい。
- ・ベトナム向けのりんごについて、日本政府には規制の解除と関税の引き下げに努力していただきたい。

3 台湾瓦克國際股份有限公司（輸入業者：台北市）

日 時 5月26日（火）13:30~14:30

対応者 マネージャー 李 昭志

<李マネージャー>

- ・平成26年産の青森県産りんごの取扱量は前年と同程度である。
- ・一方、アメリカ産の取扱量は2倍となっている。アメリカ産の品質は悪いが低価格なので取扱やすい。
- ・旧正月後、青森県産りんごの「有袋ふじ」は、品質もよく、荷動きは良かった。
- ・26年産の青森県産りんごの品質は総じて良かったが、決算で黒字になった最も大きな要因は円安効果である。
- ・青森県産りんごの販売先は、伝統市場のみ。
- ・青森県産りんごは、最近、外観が悪いらんごが増加傾向にあるように感じている。品質レベルも下がってきているように感じている。消費者に価格見合いの価値を感じてもら

えるように、高品質なりんごを提供してもらいたい。3番手、4番手のりんごが多くなったら価格の付け方が難しい。

- ・有袋ふじについても、産地の実情は分かっているが、全部サンふじになってしまえば、アメリカ産との差別化ができないので、維持していってもらいたい。
- ・「大紅栄」は、昔は良かったが、味が落ちたと思う。
- ・韓国産りんごについては、見た目はまあまあだが、それほど美味しくない。価格帯も高くもなく安くもなく、全体として中途半端な位置にいる。台湾では反韓感情も強いのでそれほどシェアは伸びていない。
- ・南半球のりんごは、NZ産ふじ、チリ産ふじ、南アフリカ産ふじの取扱が中心である。
- ・台湾の若者はりんごを食べなくなってきたので、消費宣伝を継続していくことは大事なことだと思っている。りんご対策協議会のCMは良かったと思う。
消費宣伝する際は、放射性物質のことは、マイナスイメージにつながるので、もう触れない方がいい。りんごのおいしさ、美しさ、新品種をPRしていくことが大事。
- ・このままでいけば、27年産の青森りんごの取扱は増える見込みがあるが、まずは「トキ」の出荷タイミングが大事になる。台湾の消費者はトキの美味しさを知ってしまったので、25年産のような熟度の進んでいない段階のトキは、輸出しないようにしないとイケない。
- ・選挙時期は、りんごに限らず全体の荷動きが悪くなる。特に今年は大変だと思う。

4 台湾新果国際有限公司（輸入業者：台中市）

日 時 5月27日（水）11:00～12:00

対応者 執行董事 賴 文華

業務代表 莊 啓進

アシスタントマネージャー 温 桂貞

<頼執行董事>

- ・青森県産りんごの取扱量は、去年の2倍くらいである。その要因としては、品質どうのこうのというより、円安が一番の要因である。
- ・26年産の青森県産のトキは甘くて品質も良かったので、27年産も同様な品質であればトキはまだまだ売れる。ただし、その前の年のようなトキではもう売れないので気を付けてもらいたい。
その他の品種も、総じて品質は安定していて良かった。今年産も基本的な量は維持する予定だが、品質、価格が同じであれば少し伸ばすことも考えている。
- ・青森県産りんごの販売先は、スーパーマーケットが4割、伝統市場向けが6割といったところ。スーパー向けは中クラスのりんごを出している。
- ・青森県産りんごの今後の消費拡大に向けては、品質管理の徹底と価格で次第。
- ・また、近年、台湾の消費者は、食の安全・安心にかなり神経質になっているので、青森りんごが安全・安心であるということを、消費者に伝えていくことが大事である。例えば、安全・安心な青森りんごということが伝わる内容のCMを流せば、消費者にそのイメージがインプットされ、多少価格が高くても、青森りんごを選んでくれるようになる

のではと思う。

- ・アメリカ産は前年産と同様の扱い量である。品質は良かったり、悪かったりだが、とにかく安いので扱いやすい。
 - ・その他は、チリ産、NZ産、南アフリカ産である。韓国産は、日本産ほど美味しくなく、アメリカ産ほど安くもないこともあり、扱いにくいので減少傾向にあり、今年産は取扱をしない予定である。
 - ・今年のチリ産は着色があまり良くないが、味はいつもと同じくらい（有袋ふじを試食したが、それなりのものであった）。
- ただし、今年のチリ産には果皮表面に黒点のある果実が多い。りんごを箱詰めする時は見られないようで、原因がよく分かっていない。
- ・NZ産は着色がいい。関税もゼロになるので伸びていくだろう。
 - ・南アフリカ産は、台湾の一般家庭向けに売られている。台湾のりんごと同じくらいの小玉なので、台湾産だと間違っって買う人が多いようだ。
 - ・産地証明の件については、影響がないと思っている。

5 長龍農産股份有限公司（輸入業者：高雄市）

日 時 1月24日（土）16:00～17:00

対応者 董事長 蔡 長龍

業務専員 鐘 香儒

阿成水果行（仲卸業者）邱 阿成、邱 文啓

<蔡董事長>

- ・平成26年産の青森県産りんごの取扱量は、前年産と同程度である。品質は良好であり、円安で輸入しやすい状況だったが、消費が減っていることもあり、前年産並みとなっている。逆に、品質が良かったから、この量を保っている。
- ・青森県産りんごは、スーパー向けが2割、伝統市場向けが8割といったところ。スーパーは我々から直接仕入れるほかに、直接伝統市場からも仕入れている。
- ・青森県産りんごの取扱品種は、トキ以外はサンふじが中心となっている。
- ・アメリカ産も前年産よりやや少ない取扱量である。品質は例年と同程度であるが、量が多かったこと、台湾側のりんごの消費が落ちていることがその要因である。
- ・全般に若い人たちは、ももやさくらんぼなどの柔らかい果物を好んで食べるようになってきている。
- ・チリ産は、青森県産りんごの次に甘みがあるが、よく問題が発生する。特に今年は、着色が悪い上に、果皮表面に黒点があるものが多く、歩留まりが悪い。黒点の発生する理由はわからないが、輸送期間の長さが影響しているものと思っている。
- ・NZ産は、アメリカ産よりも品質は上で、中クラスの位置づけ。
- ・韓国産は、着色、糖度ともに悪く、取扱は減少している。
- ・南アフリカ産の取扱はない。
- ・会社としては、現在、輸入業より輸出業に力を入れており、中国をメインに台湾の果物を輸出している。

- ・青森県産りんごの今後の消費拡大には、台湾の人がよく見るテレビでのCMが効果的だと思う。51ch、52ch、53ch（民視）、54ch（民視）、55chのうちのどこか1社でCMを流せばいい。
- ・産地証明書の件は、全く気にしていない。

6 交流協会台北事務所

日 時 5月26日（火）15:00～15:30

対応者 経済部 主任 末口忠義

<末口主任>

- ・台湾の販売業者からの話では、青森りんごは、価格の高いものから安いものまで幅広く手に入れることができること、他の作物に比べ残留農薬も問題になっておらず、安全・安心のイメージがあるとのことで、非常に評価が高い。
- ・アメリカ産は青森県産の1/3の価格であるため、地域によってはアメリカ産と低価格の青森県産が同じ箱に入って売られたりもしており、青森県産の低価格帯のりんごがアメリカ産と競合している。それでも、アメリカ産のワックスを敬遠する人もいるので、青森県産は優位にあると聞いている。
- ・りんご以外では、さくらんぼが人気があるらしい、輸送が大変で扱いづらいとのこと。
- ・台湾側の新たな規制の関係では、生鮮食品は、通常添付される検疫証明書で対応できると聞いている。
- ・台湾側は、産地証明書の添付や授權リストの提示等を求めているが、日本政府としては、どのような根拠でそのような規制を行うのかを、これまで台湾側に求めているが、台湾側からは回答がない状況が続いている。そういった中で、日本としては今回の規制強化を受け入れることはせず、撤廃を要求するというスタンスを堅持している。
- ・根拠のない規制を受け入れた場合、他の国が同様の規制を打ち出してきた場合に対応できなくなる。そういう意味で、国は今回、新たな証明書の発行はしない。
- ・実際、検疫証明書で対応できない加工食品については、輸出に影響するところがでてくると思うが、台湾側は商工会議所法で位置づけられた514の商工会議所で発行する証明書は受け付けるということをプレスリリースしており、現在、商工会議所での対応が徐々に増えてきている（大阪商工会議所や神戸商工会議所等）。
- ・ただし、商工会議所で使用している様式上のどこにどのように産地を記載するかは、台湾側の考え方が統一されていないようで、今後もう少し状況を見極めていく必要がある。証明書に別添で付ける資料には割印がないと認められないようである。
- ・台湾での規制の影響としては、5月の母の日、父の日の贈り物として、日本製品の売れ行きが良くなかったと聞いており、もしかすれば、新たな規制の騒動が、風評被害的に働いたかも知れないとみている。
- ・加工食品の輸出を見合わせているところも多いようで、台湾では、若干の品薄状態が続いている。
- ・あまり詳細は言えないが、産地偽装の件が片付けば、産地証明書の添付も必要がなくなるような台湾側の反応もある。輸入禁止5県の解除もあり得る。

< 新北市果菜批發市場（三重市場） >



チリ産「ふじ」



同左



チリ産「有袋ふじ」



NZ産「ふじ」



青森産「有袋ふじ」



ギフト用詰合せ

< 台中市果菜批發市場 >



台中市場



チリ産「有袋ふじ」



チリ産「ふじ」(果皮黒点)



南アフリカ産「ふじ」



NZ産「ふじ」



ゼスプリポスター
「栄養密度=りんご×7」表示

<花果山水果（台北市）>



南アフリカ産
約13元/1個



南アフリカ産
約17元/1個



南アフリカ産
25元/1個



NZ産
20元/1個



チリ産
45元/1個



チリ産
59元/1個



チリ産「ふじ」
70元/1個



チリ産「ふじ」
120元/1個



ギフト詰合せ
590元/1箱

<太平洋SOGO（台北市）>



アメリカ産「ふじ」
119元/1P (6個入り)



チリ産「ふじ」
109元/1P (3個入り)



NZ産「ふじ」
329元/1本 (4個入り)

< ウェルカム (台北市) >



アメリカ産「スターキング」
25 元／1 個



チリ産「ふじ」
45 元／1 個



NZ産「ふじ」
79 元／1P (5 個入り)

< ジェイソンス (台北市) >



日本産「ふじ」



日本産「有袋ふじ」



日本産「ふじ」糖度保証



NZ産「ふじ」



NZ産「QUEEN」



県産りんごジュース